

ジェンダーの呪文 ～モヤモヤする言葉～

日常会話の中で耳にした、「男は仕事、女は家庭」「男・女らしさ」といった無意識の思い込みを含むモヤモヤする言葉を募集しました。

皆さんがどんな言葉でモヤモヤしたのかを知って、男女共同参画について考えましょう！

「今日のごはん何？」

たまには「今日のごはんは何にしようか」と言えんものかねえ。

「男性が育児していると、褒められるのが納得できない。」

自分も家事をしているので、家事の大変さを分かっているから、家事をする人には男女、年齢関係なく褒めている。しかし、たまたま男性で家事をやっている人に対してそのように声をかけた際に、その一部分のみを切り取って、一方的に言われるのは納得できないと思った。

「本当、“女”だよねえ」

同性からのこのセリフ、私には『女を売りにしてる』と言われているように聞こえて嫌いな言葉です

「女の子は愛想良くしないと、お嫁にもらってもらえないよ。」

愛想良くするのは男も女も同じ（不機嫌さらすのはマナー違反ですね）。女の子はモノではないし、結婚は対等。こういう昔の考えで育った方々、良かれと思ってお孫さんに言わないでほしいです。そろそろ更新です。

「男女共同参画センターフィットネスルームの「女性に限る」」

男女共同参画センターなのに女性に限る？

「育児参加休暇」

「育児休暇」じゃダメですか？普段から育児参加してます！

「結婚しないの？」

なぜ結婚する前提なのか。どうしてパートナーと結婚できるヘテロ前提なのか。そもそも結婚したいと思っている前提で扱われるのが腹立つ。この世にヘテロしかいないと思ってるようなマジョリティの傲慢さに苛立つ。

「そこはまあ、女つかってさあ」

仕事中に他の人が言われているのを耳にしました。性別で仕事をしているわけではないのに、すごく失礼だと思いました。

「かわいいねー女の子？あー次は男の子だね」

赤ちゃんを抱っこして出かけるとよく声をかけられました。男を産まないといけないような話でした。区別せずにかわいがってほしいです。ひとりでも、子どもを産むのは大変なのです。

「ごはん、どうするの？」

私(妻)が外出する時や、体調不良で寝込んだ時などに夫に言われます。自分で作る、作ってあげる、という選択肢はありません。

「女なんだからお淑やかにしろ」

女がなぜお淑やかにしてなきゃいかんのか意味が分かりませんでした

「やる気がある女はめんどくさいから、いらないんだよ」

全否定された気持ち。モチベーションが下がり、存在意義を否定された気持ちになった

「失礼ですが、年齢(体重)を教えてください。」

女性に年齢や体重を聞く際に、「失礼ですが」とつけるのはなぜなのか。男性にはつけないのに。背景に、「女性は若くないと価値がない」「痩せている方が価値がある」という女性への価値づけ、ルッキズムが見える。性別問わず、年齢も体重もその多寡に優劣をつけるべきではないが、特に女性はこの価値観を押し付けられがちでモヤモヤ(イライラ)する。

「女〇〇(女社長、女医、女流棋士など)」

女であることが特異なのであえて頭に女とつけていることが、変に女であることを強調しているようで気になる。

「女の子が大声で笑うんじゃない！」

女の子は大人しく静かであるべきだと強要されているように感じた。

「生娘をシャブ漬け戦略」

「男性中心社会」がまだまだ根強い中で生まれた女性を蔑視した発言だと思う。

「若いんだから」

若いからどういうこと？と感じるから

「料理上手で女子力高いね！」

料理は生活に必要なスキルであって、女性だけがするものではない。しかし「料理上手=女子力」と感じてしまうのは、家事は女性がするものだという固定観念があるせいではないだろうか。料理をすることに性別は関係ないと考えるから、女子力と繋げられることにモヤモヤした。

「ご飯作ったの？すごいね」

私（男）はよく料理をするけど、「男性は普段料理をしない」という印象が強いんだなと感じたため

「女は愛嬌、男は度胸」

女は愛嬌さえ振り撒いとけばなんとかなるから楽だよねという女性軽視的な表現だと感じたため。

「最近の娘さんは包丁を握らない」

娘さん = 女性は包丁を握るものという前提があるから

「プリキュア見るな！」

息子が小さい時によく言ってました。言わない方がよかったなあと反省してます

「副市長は市長の女房役」

でも、その人、おぢさんだよ。女性市長が誕生してもおぢさんが女房役なの？

「家族サービス」

サービスってなに。(やってやってる感が満載。)

「こちらの企画の応募要項にある「作品」という表記」

身をもって受け、時に傷ついたリアルな蔑視発言の投稿を、創作物に用いる「作品」という言葉を使うのは、この企画において致命的ではないでしょうか。

「あとつぎ誕生だね」

私の子供は、長女、次女、長男の順で産まれましたが、長女、次女の時は「あとつぎが産まれた」と言われなかったのに、長男が産まれたときは、二人姉がいるにもかかわらず「あとつぎが産まれたね」と、数え切れないほど言われました。家業を営んでいます。長女、次女が家業を継ぐ可能性もあると私は思っていますが、世の中は、男が相続するものという前提があまりに強く感じました。

「女性の管理職登用を進めるのはいいけど、無理矢理に進めて管理職に向いていない女性が管理職になるのは困る」

男性でも向いてない人が管理職になると部下は困るし、同じ向いてないでも女性が管理職になる方が困るという根拠もないだろうし、単に女性管理職はサンプル数が少ないから目立っちゃってそういう意見をもたれやすいだけだろうし、もしかしたら女性管理職になる人もなりたくてなるわけじゃないだろうし、こんな目立つ状況で管理職をやって余計な期待や不満の声を浴びるんだからむしろ労う方がいいんじゃないかと思いました。

「男性ならでは」または「女性ならでは」

一人ひとりが持つ感性は性別に関わらず様々であるのにも関わらず、この言葉からは「こういう感性を持っているはず」という理想像の押しつけや、「こういう発想は男性にはできない」といった決めつけが、性差によってのみ行われているように感じました。

「女のくせに」

私は小学6年生の時、放送委員で、月曜日担当でした。しかも、その前日には、大河ドラマが放送されておりまして、当時「歴女」（歴史が好きな女性）がまだ流行っていなかったため、一部の他学年の男子児童からのメッセージの中に、「女のくせに歴史のことを知っているな」と書かれてあったため、私も、「せっかく毎朝会で、番組紹介を頑張っているな」と思い、悲しく、悔しい思いをしました。

「学校行事ってさあ、女親の参加が多いね、俺が行かなくてもいいよね」

確かに女性率は高いが、子供を思う気持はどちらも同じ

「料理は、おまえの仕事や」

2人で、相談したわけでもないのに、夫が言い、私がどんなに疲れていても変わって作ってくれません。たまには、作ってくれてもいいなあと思います。

「おまえの医療費は高いなあ！」

年齢が60代の後半になると、病院もいろいろ行かざるをえない状況になります。夫も病院にいくつも行ってるわけですから、お互い様のような気がしますが。

「お母さんが働いている子、やっぱりいつも寂しそうだよね。」

お子さんを保育園に通わせている友人が投げかけられたという言葉です。当の本人を良く知っていますが、全く寂しそうではなく、色々な方に囲まれて社交性バツグン、元気いっぱいです。どうして「働くお父さん」ではなく「働くお母さん」だけが責められるのか。先入観はもうやめませんか。

「やはり最後は〇〇君に男らしくバシッと決めて頂いて」

数年前、とある会議で、取り引き先の企業の男性が上司の方から「締め言葉」を求められていました。大変そうだな、性別は関係ないのに、とモヤモヤ。

「女性ならではの細やかな視点」

いまだに、テレビレポーターが取材中などに使っていることがあります。「細やかな視点」は女性だけの特性ではありません！

6月23日～29日は男女共同参画週間です
ジェンダー（社会的・文化的性差）による無意識の思い込みへの
気づきは、皆が自分らしく暮らせる社会の第一歩！